

平成12年国勢調査

従業地・通学地集計結果

- 昼間人口及び通勤・通学人口 -

結果の概要

従業地・通学地集計とは、我が国の人口の通勤・通学による日々の移動状況を把握するため、国勢調査の結果から通勤者及び通学者の人口を通勤先・通学先などの別に集計し、統計として取りまとめたものである。

「昼間人口」及び「通勤・通学人口」について

1 「昼間人口」とは、常住地からの通勤・通学による流入・流出入口を加減して算出した「従業地・通学地による人口」である。これに対し、「常住人口」とは「常住地による人口」であり、昼間人口と対比する意味で「夜間人口」ともいう。したがって「昼間人口」と「常住人口」は全国の総数では一致する。

・ A市の昼間人口 = A市の常住人口 - A市からの流出入口 + A市への流入人口
(ただし、ここで用いる流出入口及び流入人口には15歳未満の者も含む)

2 「昼間人口比率」が、100を越えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。

・ A市の昼夜間人口比率 = (A市の昼間人口 / A市の常住人口) × 100

3 なお、従業地・通学地集計における「常住人口」及び「昼間人口」には、年齢不詳の者を含まない。

4 「通勤・通学人口」とは、15歳以上就業者のうち自宅外で従業している「通勤者」の人口と 学校(予備校、洋裁学校などを含む)に通っている15歳以上で就業者以外の「通学者」の人口をいう。

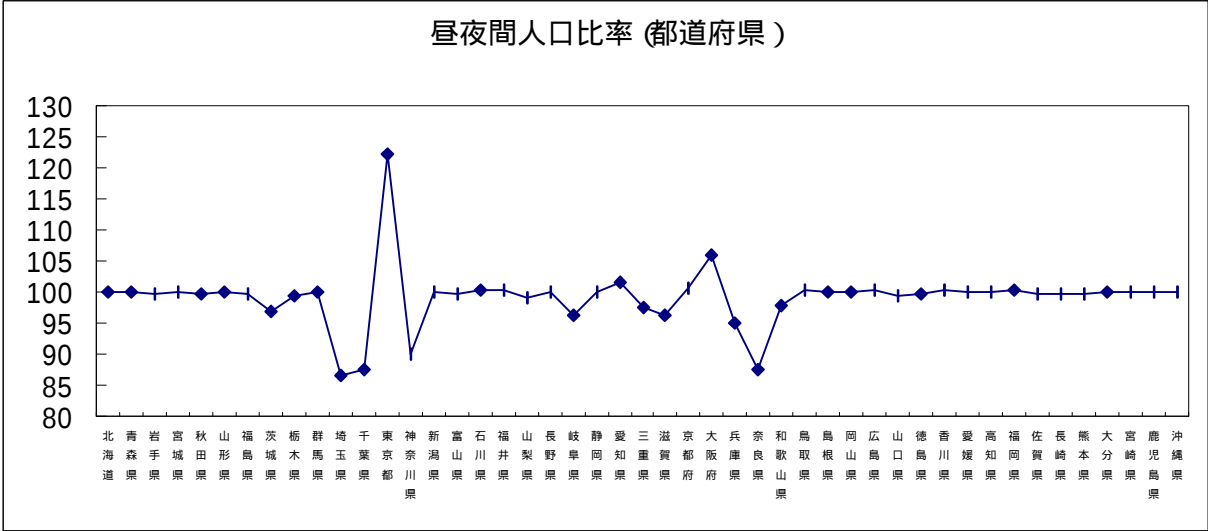
5 また、A市における「流出入口」とはA市以外へ流出する「通勤・通学人口」をいい、「流入人口」とはA市以外に常住しA市に流入する「通勤・通学人口」をいう。

1 全国の概要

(1) 昼間人口が常住人口を超えるのは 17 都府県で、昼夜間人口差が最も大きいのは東京都
(2,650 千人)

都道府県別昼夜間人口差 (昼間人口-常住人口) (単位 : 千人)

順位	1位	2位	3位	4位	5位	...	22位	...	43位	44位	45位	46位	47位
都道府県名	東京都	大阪府	愛知県	京都府	広島県		高知県		奈良県	兵庫県	千葉県	神奈川県	埼玉県
昼夜間人口差	2,650	519	115	13	10		-1		-179	-270	-734	-841	-940

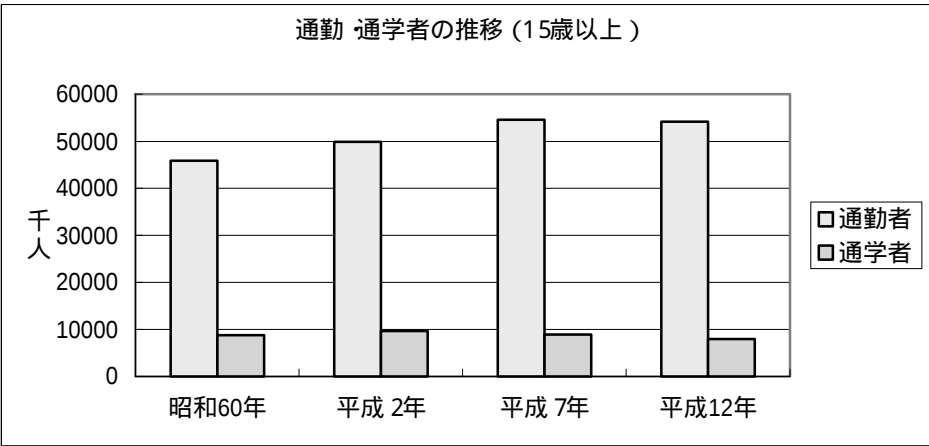


(2) 昼間人口の増加した都道府県は 23 都府県

都道府県別昼間人口の増加率 (平成 7 年 ~ 平成 12 年) (単位 : %)

順位	1位	2位	3位	4位	5位	...	28位	...	43位	44位	45位	46位	47位
都道府県名	滋賀県	埼玉県	千葉県	神奈川県	沖縄県		高知県		愛媛県	島根県	山口県	長崎県	秋田県
増加率	5.5	4.5	3.7	3.6	2.8		-0.3		-1.0	-1.1	-1.7	-1.9	-1.9

(3) 15 歳以上の通勤・通学人口は 6,211 万人 (2.2% 減) 他県へ通勤・通学する者も減少した。



(1) 昼間人口が常住人口を超えるのは18市町村で、差が最も大きいのは高知市(17,785人)

(單位:人)

市町村の昼夜間人口比率

市町村	昼夜間人口比率
高知市	105
室戸市	100
安芸市	105
南門市	100
須崎市	105
中村市	100
宿毛市	105
土佐清水	95
東洋町	100
奈半利町	105
田野町	90
安田町	95
北川村	100
馬路村	105
芸西村	100
赤岡町	105
香美町	100
土佐山田	90
野市町	85
夜須町	85
香北町	85
吉川村	100
物部村	100
本山町	100
大豊町	80
鏡村	85
土佐山	100
土佐町	105
大川村	120
本川村	85
伊野町	100
池川町	85
春野町	100
吾北村	95
中土佐町	90
佐川町	95
越知町	100
窪川町	100
橋原町	100
大野見村	95
東津野村	85
葉山村	105
仁淀村	90
日高村	95
佐賀町	100
大正町	85
大方町	95
大月町	95
十和村	95
西土佐村	95
三原村	90

(单位:%)

(3) 通勤者・通学者はともに減少。通勤者は 315,578 人 (0.1%減)、通学者は 44,281 人 (5.4%減)

